

南面の5枚の引き込み室内ガラス戸が造るバッファゾーンは、断熱性を高め、室内と外部デッキをつなぐことで暮らしを豊かにしている。縦列の水廻りは透視可されて風通しがいい。ワイドな座卓と収納が仕組まれた高床の七畳半は、しつらえの楽しみを加えている。

リフォーム前後の写真



①

BEFORE



②

和室、洋室で細かく区切られた3LDKの間取り。施主は収納量や風通しの改善を希望。



スケルトン解体の様子。床の遮音性能確保のため、△LL-4等級の乾式二重床を採用。国土交通省認定の準不燃材であり、建築廃材を一切使用しない木・水・セメントのみの、木毛セメント板で健康や安全にも配慮。

給排水もすべて新しいものに。



造作材、仕上材など、使用する材は国産材や無垢材にこだわった。床、天井など杉のやさしい香りがする。



AFTER



使用しないときはすっきりと。収納力も備えた座卓ユニット



5枚引込のガラス建具を設けたリビングダイニング。サッシと建具の間をサンルームとし断熱性を確保、天井に仕込んだ物干しフラップを下げると物干し場になる中間領域とした。可動式の小上がりタタミユニットの下部は引き出しに、中央部には収納可能、掘りごたつにもなる座卓ユニットを4つ設け、大勢の来客時にも対応できるように考えた。



②



④



⑤

リフォームの動機/設計・施工の工夫点/施主の感想・満足度/住宅の価値を向上させた内容など

築20年分譲マンション専有部分の全面リフォーム。新築時から居住する施主の要望は、温熱環境の改善をはじめ、開放的な空間、掘り座卓のある居間や書斎、充実した収納に室内物干しと、65㎡のコンパクトな物件にとって難易度は高いものだった。夫婦二人に必要な室数から再考、水周り移動を含め、建具開閉や時間帯で用途が変わる、空間を兼用する大空間プランとして計画を進めた。浴室は北側に移動、ハーフバスで上部はガラスとし、土間を介して、洗面と仕上げを合わせることで視線が繋がる開放的な空間に。廊下には

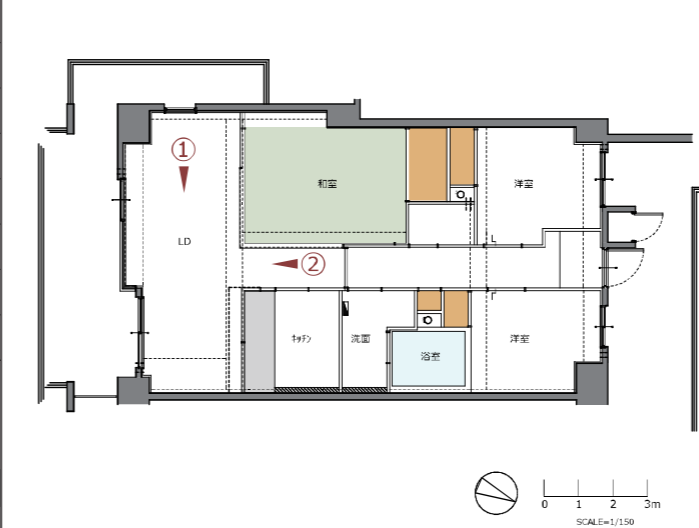
本棚と机を設け、引戸を閉めることで書斎として使えるようにした。大空間の居間には可動式小上がりユニットを敷きつめ収納量と可変性を確保。収納式の座卓も設け、来客時も使える掘り座卓とした。凹凸があり複層化しにくい窓は5枚建てガラス戸を引き込むことで断熱強化。窓間の隙間はタイル土間とし、収納式のフラップを持つ物干しスペースとしている。壁は珪藻土、杉床は△LL-4性能の乾式二重床で遮音性を確保。ウッドデッキにより面積以上の広がりを感じる、採光や通風も確保した可変性のある木の家となった。

性能向上の特性
温熱性能、耐久性能、防音・遮音性能、室内空気環境

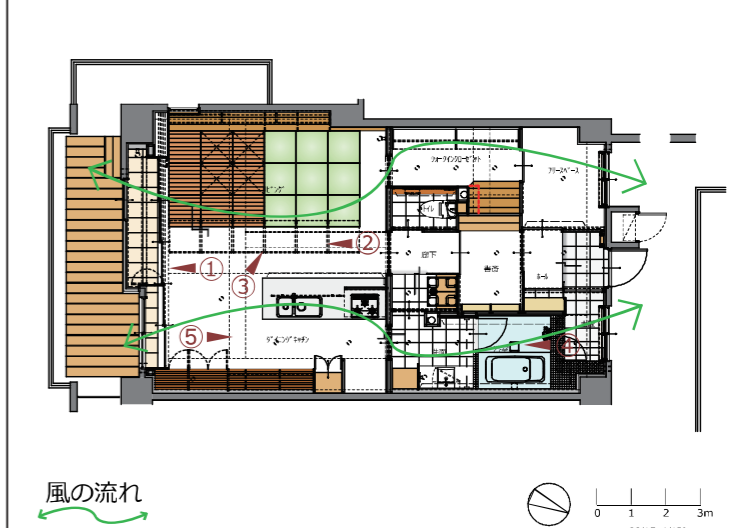
特に配慮した事項
断熱改修 Q値=4.61→1.53 外壁:スタイロフォーム25ミリ
内窓:トステムインプラス(ペアガラス空気層12ミリ)

データ		データ	
所在地	大阪府東大阪市	築後年数	20年
該当工事床面積	61.09㎡ / 総工事床面積 61.09㎡	施工期間	90日間
居住者構成	65歳以上:0人、15~64歳:2人、15歳未満:0人、ペット:	該当部分工事費	1640万円 / 総工事費 1640万円

リフォーム前の平面図



リフォーム後の平面図



リフォーム部位: ■居室/ ■台所/ ■浴室/ ■便所/ ■洗面所/ ■廊下/ ■階段/ ■玄関/ □クローゼット/ □タテヨリ共用部分